

あなたの「生きる濃度」は

昨年の四月二十一日に書きましたので、知っている人もいるでしょう。改めて紹介しますね。毎朝私が登校を見届けている場所にやってくるトイプードルの「あずき」ちゃんです。私の姿を見つけると、ご主人をぐいぐい引っ張り、走ってやってきます。体をすり寄せてきたり、ぴよんぴよん跳ねたりして、私に癒しを与えてくれる三歳の男の子です。



テレビのCMを何気なく見ていた時のことです。「君の時計は六倍早いから、一秒一秒を大切にしたい」という言葉に出会いました。「君」とは犬を指します。それをあてはめると、今のあずきちゃんは、人間の十八歳にあたります。高校を卒業し、いよいよ大学進学や就職に向かうという希望に満ちた年ごろですね。

私にもあてはめてみました。現在六十歳ですので、犬の十歳に相当します。老犬の仲間入りといったところでしょうか。仕事や子育てを終え、あとは健康に気を付けて、ゆっくり余生を楽しむときに入りました。

こんなことも考えました。

「『生きる濃度』というものがあつたら、あずきちゃんと私では比べものにならないなあ。あずきちゃんの一年と私の一年、『一生懸命』がより詰まっているのは、あずきちゃんの方だ。」

一歳時の自分を、私は当然覚えていません。しかし、人間の一般的な成長から考えると、よちよち歩きぐらいだったであろうと考えられます。食べ物も柔らかい離乳食ぐらいだったでしょう。

一方あずきちゃんは、人間よりもはるかに早く立てるようになり、一歳の時には、自由自在に飛び回っていたはずです。食べ物だつて、ご主人が与えてくれるものを喜んで食べていたことでしょう。

同じ一年でも、こんなにも違うのです。犬の時計が六倍速いということとは、生きる濃度も人間の六倍だと言えるでしょう。そう考えると、毎日あずきちゃんを見るたびに、私もこの子に負けられないように濃く生きようと思います。「私のもとに元気いっぱいに来てくるあずきちゃんに負けられないように、はつらつと過ごそう」と、私はいつも刺激を受けています。

あと二週間弱となったあなたの令和三年度はいかがでしたか。濃く生きることができましたか。どれほどの成長が、あなたにあったのでしょうか。大空を自由に飛び回れるようになるための力はどれくらい付いてきているのでしょうか。

中学三年間は、本当にあつという間です。その三年間を、どれくらい濃いものとするかはあなた次第です。特に二年生の皆さん、残された時間は一年。プレッシャーをかけるつもりはありませんが、一層自覚して生活すべき時が来たようです。(三月十七日 記)